

# 尻屋三余会の100年の歴史を祝う

2月26日(土)、北地区基幹集落センターにおいて、尻屋三余会100周年記念祝賀会が行なわれました。

尻屋三余会(浜端敬仁(会長)は、明治44年に『尻屋青年会』から『尻屋三余会』へと改称し、本年をもって100周年を迎えました。『三余会』の由来は、「1年の余りは冬にあり、1日の余りは夜にあり、晴天の余りは雨天にあり、この3つの余暇を無駄にせず修養するべし」との教えから、尻屋三余会へと改称されました。

同会の歴史は300年以上とも伝えられており、能舞の伝承をはじめ、独自の奨学制度を設けて若者の育成に力を入れるなど、その活動は多岐にわたり、地域の活性化に貢献してきました。

祝賀会では、多くの来賓、関係者が出席する中、同会による権現舞が奉納され、今後益々の発展が祈られました。また、会食中にも能舞や手踊りが披露され、同会の100周年を盛大に祝いました。



尻屋三余会による権現舞



能舞や手踊りも披露されました



浜端敬仁会長



多くの方が尻屋三余会の100周年を祝いました



祝辞を述べる南谷壽一部落会長(左)と越善靖夫村長



## 東通村歩くスキーの集い

2月26日(土)、村営第2牧場周辺を会場に、東通村歩くスキーの集い(主催 東通村歩くスキーの集い実行委員会)が開催されました。

歩くスキーの集いには村内外より90人が参加。スタート前に東通村歩くスキーの集い実行委員会より「今日は東通村の景色を楽しみながら、健康のために、それぞれ無理のないペースで歩きましょう」と挨拶があり、一斉にスタート。親子や職場の仲間など参加者は様々でしたが、コースの傾斜に苦戦しながらも、景色を見たり、参加者同士で会話を楽しみながら歩きました。

終了後には、実行委員会より肉汁が振舞われ、東通和牛バーベキューを食べながら、歩くスキーで疲れた体をゆつくりとほぐしました。

